（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和４年３月 31 日

県立白山高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 (令和２年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 24 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎礎学力の定着を図る「学び直しから」、自ら考え判断し表現する力までを育み、普通科と美術科が相互に刺激し高め合う教育課程を編成、実施する。 ②「育みたい生徒像」を実現し、個に応じた学力を育成するための ICT 活用を進め、組織的な授業改善を行う。 ③学校行事等をとおして協働する力を育む。	①新しい教育課程に対応した評価手法を確立する。 ①確かな学力の定着と教育の「質」を高める授業改善を進める。 ②一人一台端末に対応した授業方法を確立する。 ②図書館の利用を促し、生徒の読書活動を推進する。 ③体育祭、文化祭、球技大会、生徒総会等の行事を通じて、生徒が主体的に企画運営できるように支援する。また、生徒が自主的・積極的に参加できるような行事づくりにつとめる。	①共通シートを使用した成績処理の導入。 ①評価と指導の一体化を意識した授業を行う。 ②研修会などＩＣＴ環境の利用に関する情報発信を行う。 ②図書館と教科の連絡を密にし、生徒が活字に親しむ機会を増やす。 ③生徒会本部役員の生徒と積極的なコミュニケーションをとり、生徒の発想をくんだ行事の企画運営を円滑に行う。	①共通化した規準をもとに成績処理が行えたか。 ①単元ごとの評価を円滑に行えたか。 ②端末を有効利用した学習活動を行えたか。 ②図書館の利用機会が増加したか。 ③生徒会本部役員や委員会において生徒全体のニーズに答えた活動ができたか。また、活動を通じて役員自身が達成感を感じることができたか。 ③学校行事への参加率や生徒の達成感・満足感はどのようなものか。	①共通化した基準をもとに成績処理を円滑に行えた。 ②ＩＣＴ環境の利用に関する情報発信を行い、端末を有効利用した学習活動の機会を拡大した。 ②調べ学習に図書館を積極的に利用した。 ③新型コロナ感染対策を講じて、体育祭、文化祭等の実施を生徒ともに協議・検討し、企画・運営し実施した。	①評価と指導の一体化を意識した定期テストの在り方を模索する。 ②今後の実践拡大のために、一層の情報発信に努める。 ③コロナ禍での生徒会行事、生徒会活動に関して、活動可能な範囲での活動ということを生徒に理解させ、行事にあたる	②一人１台 PC は評価できる。調べ学習などの利用だけでなく、家庭学習や発展的な学習につながるような活用に期待する。	○共通化した基準をもとに成績処理を円滑に行えた。 ○ＩＣＴ環境の利用に関する情報発信を行い、端末を有効利用した学習活動の機会を拡大した。 ○調べ学習に図書館を積極的に利用した。 ○新型コロナ感染対策を講じて、体育祭、文化祭等の実施を生徒ともに協議・検討し、企画・運営し実施した。	○評価と指導の一体化を意識した定期テストの在り方を模索する。 ○家庭学習や発展的な学習につながるような活用を進めるとともに、一層の情報発信に努める。 ○調べ学習では図書館を有効的に利用するとともに１人１台 PC の効果的な活用を全校で進める。 ○状況を確認しながら、コロナ禍での生徒会行事、生徒会活動に関して、活動可能な範囲での活動ということを生徒に理解させ、行事にあたる
2	(幼児・児童・) 生徒指導 ・支援	①他者を認める寛容の精神と自らを律することができる自己管理力を育てる。 ②生徒一人ひとりの課題に対するきめ細かな教育相談体制を充実・発展させる。 ③部活動やボランティア活動等をとおして豊かな人間性や社会性を育てる。	①ルール・マナー指導を徹底し、すべての生徒が充実した生活を送れる安全、安心な学校づくりを推進する。 ②生徒一人ひとりに寄り添う組織的な生徒支援と教育相談体制の充実、発展を図る。 ③部活動への関心を高め、加入率の向上・活性化を図る。 ③部活動・ボランティア活動をとおして、充実した学校生活を感じ、ボランティア精神、モ	①問題行動の未然防止、いじめ未然防止と早期発見、「白山高校ソーシャルメディアポリシー」に基づく SNS 等に関する指導を徹底する。 ①服装、頭髪などのルール、授業中、登下校時のマナーに関する指導を充実する。 ②多角的に生徒情報を収集、共有し、適切な問題把握と対策を検討する。また、必要に応じて外部専門機関と効果的に連携する。 ③部活動参加への勧誘活動・広報活動を充実させ、新入生に自然に興味関心を抱いてもらい、部活動加入率の向上を図る。 ③学校近隣地域などでのボランティア活動や部活動でのボランティア活動を	①問題行動の減少と軽微化がはかれたか。 ①生徒が自らルール・マナーを遵守して行動する自己管理力を身につけたか。 ②支援を必要とする生徒の正確な把握とそれに対する適切な支援を策定することができたか。 ③部活動加入率や満足度は向上したか。 ③委員会等生徒会活動に生徒が主体的に取り組めたか。また活性化したか。 ③ボランティア活動を行う機会を増やすことができたか。	①問題行動件数に変化はないが、それはより積極的な指導の結果と言える。特に盗難件数を減少させることができた。 ①ルール・マナー指導の結果、生徒の自己管理力は向上傾向にある。 ②多角的な生徒情報を基に、適切な支援を行った。また、必要に応じて外部機関との連携も図った。 ③新入生歓迎会において、大型スクリーンを活用し、部活動紹介動画を放映し、実演紹介できる状況を図り、新入生に部活動の活動がわかりやすいように、また興味、関	①SNS に関する問題行動は依然として多いので、今後も指導を徹底していきたい。 ①校外における生徒のマナー向上には、さらなる指導が必要である。 ②生徒情報の共有という点に関してはまだ改善の余地はある。外部機関との連携もより強固なものにしていきたい。	①SNS の問題行動に対しては外部講師を活用したり家庭の協力を促してほしい。①携帯の利用が増え、トラブルなども多くあると思うが、繰り返しの指導、ルールやマナーを守ろうする一人ひとりの意識が上がる事を期待する。	○問題行動件数に変化はないが、それはより積極的な指導の結果と言える。特に盗難件数を減少させることができた。 ○ルール・マナー指導の結果、生徒の自己管理力は向上傾向にある。 ○生徒情報を基に、適切な支援を行った。また、必要に応じて外部機関との連携も図った。 ○部活動への興味を高めるため、新入生歓迎会を工夫し興味、関心を持つように努めた。 ○ボランティア活動に	○SNS に関する問題行動は依然として多く、外部との連携や家庭の協力を促し、指導を徹底する。 ○マナー向上には全体での指導とともにここに向けて、さらなる指導が必要である。 ○生徒情報の共有するための方策を構築し。外部機関との連携もより強固なものにしていく。 ○状況を確認しなが

	視点	４年間の目標 (令和２年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 24 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			ラルを大切にする精神を育成する。	紹介・支援し、生徒の自発的な参加を促す。		心を持つように努めた。 ③ボランティア活動については、コロナ禍と言うこともあり活動の制限等を行いつつ活動した。	③コロナ禍での感染防止の対策を考慮しつつ部活動、委員会活動、ボランティア活動などについて、平常活動にもどれるようにしていきたい。		ついては、コロナ禍と言うこともあり活動の制限等を行いつつ活動した。	ら、コロナ禍での感染防止の対策を考慮しつつ部活動、委員会活動、ボランティア活動などについて、平常活動にもどれるようにしていく。
3	進路指導・支援	①「夢・目標　ここで未来を見つけよう」をスローガンに、高い志を持って目標に向かい努力することによって自己実現を図る。 ②美術科の専門性を生かした進路実現を支援する。	①総合的な探究の時間の有効活用をする。 ①生徒の主体的な活動を促す。 ①アセスメントテスト（基礎力診断テスト）の結果を活用し、自己有用感の発達を促す。 ①②進路実現に向けた前向きな態度を養う。	①総合的な探究の時間の内容等について、PDCAサイクルにより目の前の生徒に合うようアップデートする。 ①進路適性テストを活用し、自己の能力・適性等の理解を深める。 ①インターンシップ等の体験活動を有効活用する。また、タイムリーな分野別職業体験等の設定をする。 ①②上級学校への進学や就職に向け、模擬面接や論文指導等を行う。	①　総合的な探究の時間の授業評価や進路選択が円滑に行えたか。 ①自己の能力・適性等を理解させることができたか。 ①インターンシップ等の体験活動に積極的に参加させることができたか。 ①②キャリアガイダンスの充実のほか上級学校への進学や就職に向け、適切な面接指導や論文指導を行うことができたか。 (進路希望者の実績数)	①総合的な探究の時間の授業評価は円滑に行えた。 ①自己の能力・適性等を理解させることができた。 ①インターンシップ等の体験活動はコロナ禍を踏まえた範囲で参加させることができた。 ①②キャリアガイダンスの充実のほか上級学校への進学や就職に向け、適切な面接指導や論文指導を行うことができた。	①やりたいことや将来の希望を持っていてもどのように努力していいのか、わからなかったり、単に希望だけ述べて努力しない実態がある。 ①インターンシップはコロナ禍の影響をもろに受けている。状況を見ながら推進していく。 ①就職希望者のうちなんとなく進められない生徒が多い。今後個別に指導にあたっていく。	①インターンシップの参加者が多いことは評価できる。 ①将来の希望をイメージしやすいようにインターンシップで実際の体験を通して夢を現実に近づけて欲しい。	○総合的な探究の時間の授業評価は円滑に行えた。 ○自己の能力・適性等を理解させることができた。 ○インターンシップ等の体験活動はコロナ禍を踏まえた範囲で参加させることができた。 ○キャリアガイダンスの充実のほか上級学校への進学や就職に向け、適切な面接指導や論文指導を行うことができた。	○生徒の自己実現に向けて実態を把握しながら、支援していく。 ○インターンシップはコロナ禍の影響を受けているが、状況を見ながら推進していく。 ○就職希望者の希望動機等を把握し個別指導にあたっていく。
4	地域等との協働	①地域と共にある学校づくりを行い、広い視野を持ち、地域に貢献することによって自己有用感を育む活動を充実させる。 ②地域やPTA等との連携を図り安心・安全で信頼される学校づくりに取り組む。	①地域と連携した防災訓練、防災教育を実施する。 ②地域やＰＴＡと連携を密にし、生徒が安心して生活できる信頼される学校づくりに取り組む。	①地域の特質を踏まえたDIG 訓練など、地域と連携した防災教育を実施する。 ②地域やＰＴＡと連携した交通安全教育など、安全・安心で信頼される学校づくりに取り組む。	①地域と連携した防災教育を実施出来たか。 ②地域やＰＴＡと連携した交通安全教育などが実施出来たか。	①職員の DIG 訓練を地域の自治会等にも呼びかけて実施することを計画していたが、コロナ感染防止のため、机上研修に変更となった。 ②PTA と連携して交通安全大会に向け、活動していたが、コロナ感染防止のため縮小した大会となった。	①コロナ禍の中でも地域と連携して実施できる防災教育について検討していく。 ②交通安全大会は規模を縮小して実施となった。大会の様子を収めた DVD や交通安全教育の教材等が配付される予定なので、交通安全教育に活用する。	①今年度は実現できなかったが、学校と自治会で連携し、境界道路の清掃を行えればと考えている。 ②コロナの影響で学校行事への参加が制限された中、PTA と密に連携し、できる範囲での支援を行った。	○自治会等に呼びかけて実施することを計画していたが、机上研修に変更となった。 ○PTA と連携して活動していたが、コロナ感染防止のため縮小した大会となった。	○コロナ禍の中でも地域と連携して実施できる防災教育について検討していく。 ○コロナの影響で学校行事への参加が制限された中、PTA と密に連携し、できる範囲での支援を行っていく。

	視点	４年間の目標 (令和２年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 24 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①教員が多様で複雑な生徒の課題に寄り添い向き合う時間を確保するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ②在校生や中学生、保護者や地域に向けた情報発信を充実させる。 ③事故・不祥事の根絶を図る。	①ICT 機器を活用し、効率的な校務の推進ができるよう環境整備を図る。 ②HP やメール配信、学校説明会や学校見学の機会を通じて情報発信を充実させる。 ③事故・不祥事防止について教職員の意識を高める。	①ICT 機器を活用し、効率的な教材開発や教科研究に取り組めるよう体制づくりをする。 ②時機に応じた HP の更新とメール配信を行い、保護者や生徒の目線に立った説明会や見学会を実施する。 ③公務外非行や交通違反・事故の防止に向け、教職員の意識をさらに高めるための研修会を実施する。 ③体罰やハラスメントの根絶に向け、教職員の意識をさらに高めるための研修会を実施する。	①教材開発と教科の研修の視点から効率的な校務推進の体制づくりができたか。 ②こまめな HP の更新とメール配信ができたか。情報発信は保護者や生徒の目線に立ったものであったか。 ③教職員の事故・不祥事防止への意識が高まり、事故・不祥事ゼロを達成できたか。	①授業時に使用するプロジェクター投影用のスクリーンを拡充した。 ①ICT 利活用のための研修会を実施した。 ②時期に応じたメール配信や、HP の更新を行い保護者や生徒の目線に立った説明会や見学会が実施出来た。 ③職員会議後に不祥事防止会議を行い、意識を高めた。 ③校長が綱紀の保持について、時期を図りながら、教職員に指示を徹底した。	①今後も年次進行で一人１台端末保有となるので、設備の拡充や ICT 利活用推進のための研修を深めていく。 ②今まで終了した学校説明会の事後アンケートでは、保護者から好意的な意見が寄せられた。今後も保護者と生徒の目線に立った運営を心掛ける。	②HP 充実などによる情報発信の成果について、その効果を保護者からフィードバックし一層の充実を目指してほしい。	○ICT 利活用のための研修会を実施し、ICT を利活用した授業の必要性を教職員が共通認識をした ○時期に応じたメール配信や、HP の更新を行い保護者や生徒の目線に立った説明会や見学会が実施出来た。 ○職員会議後に不祥事防止会議を行い、意識を高めた。 ○校長が綱紀の保持について、時期を図りながら、教職員に指示を徹底した。	○来年度は 1.2 学年が１人 1 台端末保有となるので、設備の拡充や ICT 利活用推進のための研修を深めていく。 ○学校説明会の事後アンケートでは、保護者から好意的な意見が寄せられたが、今後も受検希望者とその保護者の目線に立った運営を心掛けていく。